

我々東洋史二年クラスは、十二月学生大会にて開催され、自六十余日におよぶ本館封鎖バリケードストライキリ筑波移転をぬいてきた我々、東洋史二年クラスは再度、学校当局のあらゆる取扱策と民青の反革命的妨害を排しつつ、筑波移転白紙撤回リ七項目要求貫徹まで断固としてバリケードを守りぬくことを決意する。

我々は筑波移転そのものが、現在の資本の養成に見あつた形での、政府の教育政策リ大学支配の再編の重要な一環としてあり、そのことは現在の「大学」のより徹底した資本のもとへの隸属をはかるものであるが故に断固としてこれに反対してきいた。移転審議過程そのものの中に移転後の「大学」の姿を我々は見てヒツコキたのである。学生排除は学生を「技術労働者」=単なる商品リ「もの」としての人間をおくり出す場と「大学」をはつきりと示してこいとのである。筑波研究園都市への勧請大の移転は現在の日本帝国主義のきわめて緊急かつ重要な要請であり、従つてそれに反対する我々の斗争は明確に政府リ国家権力との真向からの対決へとつきすまざるをえない。彼らと我々の間には完全な立場の相違があり、そこには一切の「話し合いによる解決」はありえまい。我々の移転阻止の意志は、我々の力によつてしか貫徹されえるものとしこあるが故に我々は我々の大衆的な意志と力を本館封鎖、バリケードとしてさし示してきたのである。

この間、大学当局といふものが一貫して「沈黙」を続け、更にそれが有効性を示しえないヒミツのや、向う自らの移転推進の意志を変えることなく、一定の「譲歩」をよそおひながら「話し合いによる解決」への幻想をふりまきつつ、学生の分断化リスト収拾策動へのリだししてきたいことに對し我々は、はげしくそれを弾劾する。我々は我々の階級の更なる強化をかちとり、無期限、全学バリケードストライキをもつて、彼らの意図を完全に打ち碎くであろう。更に我々はこの間の斗争の過程の中で登場してきた日共リ民青の学園民主化リ全学協議会設置路線をも、我々の政府、大學当局との非妥協的な斗争を歪曲、圧殺してくるものとして、12月26、27日にみられた彼らの直接的、武力的敵対しつづけ11月10日赤旗論文によつて彼らの学園民主化リ全学協議会設置路線をそれなりに純化し、我々の実力斗争といふものを歪曲し、まさに「大学問題」をブルジョア的に解決せんとしている。彼らのいふ学生参加といふものが、現在の体制そのものにくみこまれた大學がそれ故に現象せざるをえなかつた非民主性を「修正」することにより、何か問題が解決するかのような幻想をあじえることにより、我々のこの斗争を絶息させ、大学当局リ移転推進派に一定の息づきをあたえ結局は移転を許していくものでしかなりの日とハラコトを確認せねばならぬにせらう。我々は大学当局がこのような日共リ民青を利用しあるいは結託した形でスト收拾をはかつてくるのを見る時、その犯罪性を徹底的に暴口していかなくてはならないだろう。

我々東洋史二年クラスは、この間の我々の唯一の斗う組織たる全学斗を更に強化すべく他クラス、他学部との合同クラス討論を開催してきた。我々の原則的な組織活動は、まだ不充分であるとはいえ、心理クラスとの合同アピール等の形を徐々に成果をおさめつつある。我々はこのようなことの中に全学斗の更なる強化がかかるとられる道があるのだと今ことを確認していかねばならないだろう。我々は今、現在までの斗争に断固として確信をもち、そして更に、政府、大学当局を追いつめるべく長期スト、越冬態勢を大胆に確立していかねばならぬないと考へる。我々、東洋史二年クラスはきの先頭に立つて斗いぬくさあろう。

十二月九日

東洋史二年クラス